

創立 1986 年

2021～2022年度クラブ目標

『新たな奉仕に踏み出そう
ロータリーの次の百年のために』

会長 鈴木 孝 幸
幹事 須藤 正 樹



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-22年度国際ロータリーテーマ

第1700回例会

令和4年2月24日 (18:30～19:30)

○ソング

- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 鈴木孝幸会長 (佐川会員大変忙しい時期に卓話をいただきありがとうございました。早く蔓延防止が解除されいつもの例会が開催できること祈っております。)
- 須藤正樹幹事 (佐川会員卓話ありがとうございます。先週スマイルを忘れました、すみません。今日則也先生のところで胃カメラ検査をしてきました。ちょっと辛かったです。)
- 永野文雄会員 (佐川京子会員、卓話ありがとうございます。)
- 金田昇会員 (本日の例会は所用の為出席できません。佐川京子会員、卓話お疲れ様でした。お話は週報にて拝読させていただきます。)
- 大住由香里会員 (佐川京子会員ありがとうございました。)

▶第1700回例会出席状況 (R4年2月24日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	51名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	65名
Ⓒ ①の出席者数	29名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	5名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	34名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	56
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	60.7%



会員卓話 佐川京子会員

本日のプログラム

■会長の時間

鈴木孝幸会長



皆さん、こんばんは。今日は、西ロータリークラブ3回目の完全ズーム例会にお忙しい中、ご参加していただきまして大変ありがとうございます。蔓延防止も予定では3月6日まで、3月の2回目の例会では蔓延防止が多分解除されて、今まで通りのハイブリット例会を開催できることを祈っております。さて、今日の会長の時間はわたくし的には非常に感動させていただいた北京オリンピックの感想を述べようかなとも思っていたんですけども、それはテレビなどでも皆さん沢山拝見していると思いますので、今回は来たるインターシティミーティングでパネルディスカッションのテーマとなるかもしれない、今回の私の背景に設定しておりますこちらですね、SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」のお話を今更と思われる方もおられるかもしれませんが、ちょっとだけお話をさせていただきたいと思います。SDGsは、遡れば2015年9月の国連サミットで採択された持続可能な開発のための2030年アジェンダというものに記載されたものでありまして、提案されてもう7年、2030年までの国際目標でございます。もうほとんどの皆さんもこのようなバッチ、これですね、このバッチですね。ご存じかと思えますけども、私も胸にこのようにバッチを付けて日々意識を持った行動をしようと心掛けておるところであります。このバッチはSDGsが目指す17の目標を17色の色で表現されております。それぞれは、1、貧困をなくそう。2、飢餓をゼロ。3、すべての人に健康と福祉を。4、質の高い教育をみんなに。5、ジェンダー平等を実現しよう。6、安全な水とトイレを世界中に。7、エネルギーをみんなにそしてクリーンに。8、働きがいも経済成長も。9、産業と技術革新の基盤をつくろう。10、人や国の不平等をなくそう。11、住み続けられるまちづくりを。12、つくる責任 つかう責任。13、気候変動に具体的な対策を。14、海の豊かさを守ろう。15、陸の豊かさを守ろう。16、平和と公正をすべての人に。17、パートナーシップで目標を達成しよう。というものであります。この目標を聞いて、皆さん何か感じませんか。我々ロータリーの「四つのテスト」。1、真実かどうか。2、みんなに公平か。3、好意と友情を深めるか。4、みんなのためになるかどうか。ですけども、まさにSDGsの目標がロータリーの目指すもの。そして、今まで培ってきたロータリー活動のどれかしらに当てはまるような感じだと私は思っています。私も会社は建築設計事務所として、建設業という非常に多彩な業者が存在する裾野の広い業界の中で生産活動から廃棄物処理、さらに労働環境や雇用に関する問題、そして環境問題。更には気候変動、様々な項目を見据えた上で、この17の目標のうち具体的に10の項目を選定してホームページに掲載し、社員共々会社の目標としているところがございます。それは共に、ロータリーの職業奉仕として

の意識も持って選定し実施しております。SDGsの具体的な169のターゲットに照らし合わせて合致しているものもありますが、独自の解釈で目標を設定しているものもございます。SDGsを足掛かりとして少しでも持続可能な社会の実現のために日常の業務にしても、そして納める成果品にも意識を持って取り組んでおります。具体的に幾つかだけ紹介しますと、取り組みの紹介としまして建築材料の選定では、今現在、木造と鉄骨造のコストが急激に上昇しておりますが、それは木が二酸化炭素を閉じ込めるというカーボンニュートラルの観点から非常に地球に優しい工法であると世界的に認識されていることが原因でありまして、それによって需要が高まったのであります。我が社としても、設計時にできるだけ木造の採用を推進してカーボンニュートラルを意識してるところでございます。また、鉄骨資材費の高騰については、今現在、従来の鉄骨の生産の方法では多くの二酸化炭素を排出する生産方法となってしまうのを、世界的に二酸化炭素の排出量の少ない生産方式に今転換しているところでありまして、生産方法の変更によるコスト増で鉄骨価格が高騰しているという状態であります。設計時に二酸化炭素削減に前向きな製鉄会社の採用というものを心掛けているところがございます。木造についても鉄骨についても、クライアントに若干コストが高くても環境に配慮された材料を選んでいただけるように勧めておるところであります。また、材料だけではなく冷暖房の方法に関しても化石燃料によるボイラーに頼らず、ヒートポンプによる熱源とか、地中熱利用を提案するようにしております。更には、エネルギーを消費しないのが最善でございますので、できるだけエアコンに頼らない建築になるよう入念な断熱や、夏冬以外の中間期には風通りを良くする換気を良くする。そして、日射の制御で快適な環境をつくれるよう配慮した設計を心掛けております。この機会に是非皆さんもご自身の会社の目標として、またロータリアンの職業奉仕活動の目標としてもSDGsを活用されるのも、世界各国の企業だけでなく世界のロータリークラブでもSDGsにならって目標設定されているクラブも沢山あるようでございます。私たちも今後、会社でもロータリーでも持続可能な目標を持って、8年後の2030年に目標達成を目指していくことが大切だと思っております。今回は時間が無いので、169のターゲットについてはご紹介できませんけども、ネットを検索すればすぐに見つけることができますので、是非169のターゲットに目を通していただき、できることから目標として実践していただきたいと思っております。できることがなかなか見つからない場合は、独自に目標を設定して実践していただければよいと思います。我々一人一人のロータリアンとしての努力が、将来の持続可能な社会を実現するものと思っております。それでは、この辺で会長の時間を終わりたいと思います。今日は、佐川会員の卓話であります。お忙しい中、本当に快く卓話を引き受けていただき大変ありがとうございます。それでは、今日はよろしく願いいたします。

■幹事報告

須藤正樹幹事

- ガバナー事務所 岡山直緒美：2022年度ロータリー国際大会に関するお知らせ
- 第2530地区 ガバナー 志賀利彦、RLI委員会委員長 佐藤榮朗：ロータリーリーダーシップ研究会（RLI）第4期パートⅡ開催のご案内
- 国際ロータリー日本事務局 クラブ・地区支援室：第3回クラブ・地区支援室メッセージ（2021-22Q3）
- ガバナー 志賀利彦、危機管理委員会委員長 石黒秀司：蔓延防止等重点措置の延長に伴う地区主催行事のオンライン開催期間延長（3月13日まで）について

■本日のプログラム

会員卓話

○佐川京子会員



皆さん、こんばんは。今日は卓話、何について話そうかとすごくいろいろなことを迷ったんですけども、話したいことは山ほどありまして、でもそんなにくだらだらと話してもと思いながら、一つは今自分が思っているような事。それから、今コロナ禍の時期でありますので、防災に関するような事。あとはこれから3月の定例会。今日、白河市の3月定例会が開会いたしましたけれども、その中で幾つかピックアップをしてお話しできたかなというふうに思っています。私が初めに思っている事という形で、そのような感じで話させていただこうと思ったんですが。今コロナ禍で一昨年から日本中、そして白河も、もうとにかく連日第6波の話題がニュースのトップに。まあ、昨日今日あたりはウクライナの状況なんかトップのニュースになっているようなんですけれども、日々一寸先は闇と言いますけれども、誰がこんなコロナ禍が今の時期に訪れるというふうに想像したか、思っていたかというようなことも、本当に学者の一部ではあったかもしれないんですけども、世界中にこんなコロナが蔓延するなんていうような事は私は夢にも思っておりません、始まるまで。皆さんも同じだと思ってしまうんですけども、人生何があるかわからない。あと、11年前になりますけれども、東日本大震災の時にまさかそんな災害に自分が巻き込まれるなんてことは想像だにしません、自分は大丈夫っていつもなんかなんとか思っているようなところがありまして、そういうことが一番これまでの経験で良くないというようなことだと思うんですけども、よく「正常化の偏見」なんていうんですけども、自分は大丈夫というふうに思っているのは、本当に「正常化の偏見」であって、そういう思いは払拭しなくちゃいけない。そして、とにかく自分は大丈夫と思うことをやめる。いつ何時どんなことがあっても対応できるようなことを、やはり今を生きている私たちは考えなくちゃいけない。そういうようなことを思いました。それで、こういうふうに突然災害が起こった時に自分はまず何をするか。どんな行動を取るかというようなことを、今日今すぐでも皆さん考えなければいけないんじゃないかなというふうに思っています。私も御多分に洩

れず、今例えばこの瞬間に再び大地震が起こったり、それからいきなり集中豪雨になって水害が起こったりした時に、まず初めに自分が取るべき行動は何か。11年前の大震災の時にも、みんなパニックで何していいかわからないような状況だったと思うんですけども、まずは最近、私議会で学んだことなんですけれども、「自分を守れ」。まずは、自分を守れっていうふうに大声で叫ぶ。自分も含めてなんですけども、身近にいる家族、それからその時居合わせた方達。職場なり、町中例えば歩いてておかしいんですけども、スーパーでもどこでもその場所ですら、自分を守れというふうに叫ぶ。そして、それぞれに自分の身を守る行動を取る。あと、よく大震災の時の津波ですね。その時に、やっぱり逃げ遅れたというのは、先程の話じゃないですけども、なんとなく漠然とした自分は大丈夫という思いがあったから逃げ遅れてしまったんだと思うんですよ。そういうことは本当に偏見なので、今すぐそういう考えはすべて皆さん捨て去って、まず自分を守ろう。そして、自分で人を助けられるってこう生身の人間一人ができることって、ものすごく限られてると思うんですよ。小さい子がいたらその子を一人守って逃げることはできるかもしれないんですけども、小さい人間一人が何人助けられるかといったら本当にわからない話なので、とにかく自分で自分を守れというようなことをまず叫んで、叫ぶということは自分もそういう行動を取るということなんですけれども、それがすごく大事だというふうなことを、これは最近あった議会での講座で知ったことなんですけれども、それは本当だと改めて思いました。今回、今日議会も開会して11年目の災害の3月11日が近づいていることで、皆さんで黙祷させていただきましたけれども、本当に11年前の教訓であるというふうに思いますので、そのような行動を。そして、あと逃げた先で自分で自分の命を守った先に家族であったりみんなであえるというようなことがあると思うので、私含めてですけども皆さんもそうしましようというふうにお話したいと思います。続きまして、災害の時なんですけれども、避難所とかに皆さん集まったりとかいろいろしまして、それでその時なんですけれども、とにかく行政としては守らなきゃいけないのは、市民の皆さんの基本的人権といいますか、ジョン・ロックの言葉で基本的人権というのは、「生命、自由、財産」。通常、皆さん思っただけで済む事だと思うんですけども。基本的人権、生命、自由、財産をとにかく守る。そしてまた、回復すると言っちゃおかしいんですけども、災害の時はそういうようなことになると。そして災害の時なんですけども、基本的人権はこういうことで世界中のありとあらゆる人類人間が誰でも守られなければならないことだと思うんですけども、災害の時には自由のところがちよっと変わって、「市民の生命、尊厳、および財産を守る」というふうに、災害が起こった時には、市民の生命、尊厳、財産、これを守るというようなことになってきます。本当に私、自由というところを尊厳というふうに変えるということに、とても目を奪われたといいますか、本当に最近の災害では東日本大震災、そしてまたその前にあった阪神淡路大震災の教

訓を受けて、避難所なんかでもそれぞれの人間の尊厳が守られるような対策が取られるようになってきたとは思いますが、これからの時代、本当に命を守ることに。それから、その守られた命の尊厳も守ることというようなことが特に大事になってくるんだなというふうに思っています。とにかく、人はどうして生きるかと言っちゃおかしいんですけども、人生を皆さん思ってるのは不幸に生きたいではなくて、とにかく前向きに幸せになりたいと思って生きてるというふうに思うんですけども。そこでなんですけれども、アメリカのハーバード大学で研究をしたそうなんです。それで、人が健康で幸福に生きていくためには何が必要か。人生を幸せにするのは何か。「人を健康で幸せにするのは良い〇〇〇〇に尽きる」という研究成果が出たそうなんです。皆さん、この〇〇〇〇と丸4つなんですけれども、ここに何が入ると思いますか。さっさとハーバード大学の成果ですので答えを出しますと、「良い人間関係に尽きる」という成果が出たそうです。とにかく、ロータリーの集まり、コミュニティもそうだと思うんですけども、確かにそうだなというふうに私も思いました。とにかく、人間って人の間で書くから、そういうことだっというようなことは思っているんですけども、改めて数千人の人をいろいろ調査して、それも何十年にも渡って調査した結果がこれだっというようなことが成果として発表されたということなので、本当にそうだなと。良い人間関係が築けていけば、幸せに生きていけるというようにことなので、なんとなくこの結果を聞くとほっと安心するような、そんなことをお話してみました。あとはちょっと私のいろいろなお話になってしまう訳なんですけれども、本当にコロナ禍ということで、皆さん何というか落ち着かないといいますが、いつになったらこれが収まるんだらうというように思いもありますし、また一昨年前コロナが始まった頃には、とにかく我慢我慢といいますが、それからとにかく人と会うこともいろいろ自粛自粛で緊急事態宣言が出たりとかして。でも、今回は緊急事態宣言出そう出ないというか、結局今のところ出てない。これは本当に私的にはいいなと思っているんですけども、この災害の中でもとにかく完全を求めず半分動かす。完全にシャットアウトしちゃうと、もう皆さん本当にどこまでもつかみたいな精神的にも経済的にも。でも、やはりその完全を求めないで半分は動かしていくというように形が、今取れる最善なんだらうと。それで、国のほうも緊急事態は出さずに蔓延防止でいってるんだらうなと思っています。白黒が付かないそのストレスといいますが、人とはやっぱり会いたい。だけれども、会うのは気が引ける。そしてまた、ここまではいいんじゃないかとか、ここまでは駄目なのかとか、そういう何が正解なのかよくわからない。最低限、皆さんの感染防止には取り組んでいますけれども、本当に今まだストレスが多い期間が続くと思うので、その時にはやはり完璧完全は求めずに、もう半分という形で何とか乗り切っていきたいなというふうに思っています。それは本当に私自身にも言えることなんですけれども、ちょっと今年に入ってから随分例会お休みしてしまって、私自身

にも個人的な事でもいろいろな私にしてみれば困難が降り注いでまして。とにかく、今日市長は市政方針演説の中でチャーチル、イギリスの首相の話として持ち出したことがあったんですけども、第二次世界大戦の際にナチスドイツの激しい空襲の中で国民の鼓舞した、本当にドイツの攻撃が激しくてイギリスは大変だったんですけども、とにかく敢然と立ち向かったそのイギリスの首相、ウィンストン・チャーチルが言った言葉だそうなんですけれども、「風が一番高く上がるのは、風に向かっていている時である」という言葉を残したそうなんです。当たり前なんですけれども、風が一番高く上がっているのは風を受けて風に向かっていている時であるというふうに言葉を残したというんですけども、本当に今はそれに近いといいますが、よく困難の先には明かりが、そして明けない夜はないとかいろいろ言いますが、私も自分自身にそういう言葉をいただきながら、何とか困難を乗り越えてその先に何が見えるかなというふうに、逆にわくわくするような感じで頑張りたいななんていうふうに思っています。それでは、今度は議会のことを述べたいなというふうに。先々週、高島君がやはり卓話でいろいろ話してくださったと思うんですけども、私なりにちょっとお話ししたいなというふうに思っています。今日は白河の3月定例会が開会しまして、令和4年からの予算案が議会上程されました。それで、予算の額は昨年とほぼ同様。国のほうは昨年よりも大きな予算になっているんですけども、白河の場合にはそんなに大きな変動はなく、率にしたら0.1%の減というように形。一般会計にしては、286億8,000万。そして、特別会計、企業会計含めた全会計の予算規模は、474億6,000万というふうになっています。金額だけ聞くとびんどこないかもしれないんですけども、私がもう17年前、一番最初に議員に当選させていただいた頃ですから、白河の合併前なので平成17年頃は大体一般会計の予算が200億位だったんですよ。そこからすると、やっぱり86億位しか増えてないのですが、日本の今話題になっている賃金が上がっていない、ここ何十年よく言われているんですけども、韓国なんかはやはりどんどん上がってきて、今は日本の平均賃金が韓国の賃金よりも安くなってみたいな状況のグラフを見たことがあるんですけども。その市の予算規模ももちろん上がってはいるんですけども、あまり激しく2倍とか3倍になってるとか、高度成長期みたいなことはないというように形で。全会計の予算規模もそんなわけで400億位だったんですよ。でもそれから、74億位増えてるくらいの規模というように形であります。でも、いろいろ違っているのが白河の財政はとて改善してまして、私が議員になった頃には実質公債費率24%位、25%に近づくような勢いでとても財政が悪化してました。でも、今は合併があった直後が一番ひどかったんですけども、でも今はどんどん改善してまして、もう10%前後位まできてまして、本当に白河の財政は良くなってきています。余計な話なんですけれども、私は議員になり始めた頃、それから青年会議所とかもそうだったと思うんですけども、西白河郡の合併というように形で本当だったら平成の合併ができたらいいなという

のが理想だったと思うんです。そして、結局のところ1市3村の合併にはなってしまったんですけども。私がいつも思っているのは、西郷村さんと白河は本当だったら合併したいとずっとこう思っていて、なかなか西郷さんには財政的な事とかを理由に白河とは合併しないというような形で振られてきているようなイメージがありまして。でも、もう白河も本当にどんどん改善してきているので、明るい未来に向かっていくような状況なので、このまま進んで今後どうかとは思いますが、私の希望ではずっと西郷さんには白河はラブコールを送り続けて、いつか将来的に白河は西郷と合併できたらいいなと。もう合併なんてどうでもいいという議論もあるかもしれないんですけども、どうもやはりその白河と西郷のボーダーの所に新幹線の駅であったり、それからインターチェンジであったり、いろんなものがあって。そして、とにかく経済的にも住み易的にも感覚的には一緒なのに、行政が分かれてるというのに私個人的には違和感があって、いずれ西郷と白河がやっぱり統合というか、いいななんていうふうに私の余談ですけども考えています。だから、本当に白河は財政的に今はもう昔とは違います。とても良いので是非是非ウェルカムみたいな感じで思っています。財政の話はそんなところにさせていただいて、また後は詳しく市の広報誌なんかでもまた説明というか出されると思います。あと、子育て支援で一つ言わせていただきますと、赤ちゃんクーポンとかといって各自治体でやってると思うんですけども、2歳未満まで年間3万円のオムツだったりミルクとかいろいろなものを買える券が渡されてたんですけども、今度はそれが3歳未満、だからほぼ3歳くらいまで。今までは2歳までだったんですが、今度は3歳だから1年間伸びてそのクーポンが出されるようになりまして。うちの娘が今、新潟の阿賀野にいます。そこはとても子育てしやすい環境なんですけども、その件に関しては1歳までなんていうふうに言って、白河いいなあなんて言ってたんです。それからあと、国道294号線が今工事がどんどん進んでまして、いよいよ3月6日、日曜日に4号線の薄葉の信号機、農協とかのある。そこから、白河大橋、阿武隈川渡ってまでが共用開始になる予定です。まだ工事が町中どんどん進みますので。そして今回、当日、先に3月定例議会最終日は14日で上程された議案は全て審議して、それで議決するわけなんですけども、今日開会の時にその道路に関する部分だけ先に先決しまして、それで切れ目なく年度末、年度初めでも切れ目なく工事がどんどん進むような形で、その予算を先に議決させていただきました。あとは、私毎回一般質問で市民の皆さんから寄せられる声を登壇して一般質問させていただいてるわけなんですけども、今回私的には幾つかまた質問させていただくんですけども、一つは国際交流事業についてというようなことで、台湾との交流促進についてを質問させていただこうというふうに思っています。その他、オリンピックでも話題になった絵文字のピクトグラムですね。これをもうちょっと市内の公共施設、わかりやすく見直していただきたいというようなことであるとか、ごみ問題ですね。これはどこの自治体も

同じだと思うんですけども、捨てる側、それから拾う側、いろいろ対策があるわけなんですけども、そのような事について質問をしていく。あとは、教育行政についてはわたくし五箇の出身で、今も五箇に住んで、令和6年から五箇中学校はなくなります。そして、中央中学校に統合というふうな事になっています。それで、まだちょっと早いかなとも思ったんですけども、廃校になった跡地の建物とか敷地の利用をどんなふうに検討を進めるかという質問しようというふうに思っています。あと国際交流事業について、西ロータリーも台湾の綺麗な女性の方、名前がカク・テイエイさんと言いましたかね。ロータリーに来て卓話してくださいました、ちょっと記憶が曖昧なんですけども。私も確か名刺を交換させていただいて、それから今年も年賀状をロータリーのメンバーの皆さん何人かいただいている方もいらっしゃるかなと思うんですけども私もいただいています。そして、白河市の2月号の広報誌なんですけども、そこの開いた真っ先のところに白河、台湾の交流物語というような形で特集の記事が組まれています。その中に、そのカク・テイエイさん、これ白河市長からだるまをいただいているところなんですけども、こんな記事が載ってまして。今、白河は国際的に姉妹都市を結んでいるのはフランスのコンピエーニュ市なんですけども、そこは中学生が毎年20数名で訪れるような交流であったり、それからコンピエーニュからも白河に訪れたりとかという交流が続いているわけなんですけども、ここまでといいますか、台湾これからは是非ヨーロッパの国プラスアジアの都市というような形で、できたらその台湾のこのカク・テイエイさんのいる台南市には白河区という区があるんですよね。この広報誌の中を見てもらうとわかると思うんですけども、この台南市のところの37区の中の一つに白河区と同じ字を書くんですけども、漢字が。そこがあるということで、市長がそういうことが付いて台湾と結びつきを強めていこうというような形でやってるわけなんですけども。台湾の読み方で白河という漢字はベーフォウと言うらしいんですけども、カク・テイエイさんがいらした時にもその話だったかもしれない、ベーフォウと台南、白河の結びつきで、できれば白河市がその台南市と姉妹都市締結まで交流がなったら、なんていうふうに思って今回は人的交流、そして西ロータリーさんも進めていますけども、それから物的な交流。今度、台湾は震災の後、放射能の影響ということで農産物の輸入を制限してたわけなんですけども、それが100%全部ではありませんけれども、ほぼほぼ解除されるようなことなので、時もタイミングがいいので是非白河今度そういうようなことになっていったらいいなという思いを込めて質問をすることにしています。あとは、一番最後に言った五箇中学校のなくなる件なんですけども、本当に少子高齢化は白河はものすごく進んでまして、それに比べて西郷さんは人口が増えてるようなので、本当に羨ましい限りなんですけども。学校の統廃合というのは、西郷さんの場合はそういうことは今のところ人口が少しづつ増えているぐらいだからないとは思いますが、とにかく、白河の場合は学校の統廃合は今後ますます大問

題になってくるなと思っていました。私、地元の中学校に関しては何となく議員になった当初から心配して、いよいよもうこういうような事になってしまっ。そして今、五箇中の全校生徒が30人くらいなんですよ。そして、五箇小学校はその倍くらいの70人弱なんですよ。それでそういうふうになくなってしまったのでどうしようもないことなんですよけれども、結局地元でこんなに少なくなってきたらどうするんだという話がまず持ち上がって、アンケートを住民で取ったら7割近くがもう中学校に関してはこのままの存続では子供たちが教育を受ける環境としてどうなんだというのが多くて、それで7割くらいの方がもう中央中との統合を望むみたいな初めのアンケート結果で今から6年前ですか、あったんですよ。そこからいろいろ話し合いは進んできたんですけども、地元で学校をなくすなんていう決定権はやっぱりできないんですよ。いくら地元で話し合っても。やっぱり、愛着もちろんあって話が進まず、そして一昨年2020年に地元でいくら話し合っても無理なのでということで、教育委員会のほうにこのことを何とかしてほしいというふうに上げたら、教育委員会のほうで2020年一昨年の12月に、では令和6年に中央中と統合にしましようということが出されたんですよ。それがもう決まったもので、去年の4月には五箇中学校に入った生徒は卒業までいれるんです。でも、今年令和4年に五箇中に入学する生徒は、令和6年には中央中の3年に移行するということになったんですよ。そして、今どんな状況にあるかといいましたら、6年生は今現在たったの14人くらいなんです。そして、どうなったかといいましたら、ほぼほぼ全員住所を中央中の学区に移してしまっ。それでまだ、4月にはなっていませんけれども、今年度五箇中学校に入学する生徒が一人もない予定になってしまっ。そして、そうすると来年令和5年に入学する今の小学校5年生は16人くらいしかやっぱりいないんですけども、その子たちにはまだ責任もなにもないんですけども、先輩がいなくて1年五箇中に入ったとしても、次の2年生に上がる時にはもう中央中生になることが決まってるわけなんです。だから、今年入学する生徒がいなくてということも来年もほぼほぼいなくなってしまうのではないかと。1人2人行くというのもちょっととても考えられない状況になってしまっ。私個人的には白河市の教育委員会に対して、こういうことになってしまっ頼末って言っちゃおかしいんですけども、半分ちょっと怒りめいたものがありまして、こういうどうしようもない情けない状況になる前に、合併とか統合とかと話し合う時に、教育委員会ももうちょっと真剣に地元で話し合ってくださいではなく関わべきだったんじゃないかなと。その関わるようにということも、私議会の一般質問の中でも随分訴えたんですけども、私の力不足もあったんだと思うんですが、これからの教育行政やはりその統廃合は避けて通れない。これだけの少子化が進んでいるので。本当に教育委員会さんには自分の事としてというか、責任感を持って地元にある学校だから地元で考えてくださいではなくてやってもらいたいなどは、これからも訴えていきながらやっていきたいと思っ

います。ちょっと五箇が教育的に学校が今、こんな状況にあるということは何となくお話ししたいなと思ってしまっ、それで今話してしまっですけども。あとはもう、なくなってしまうということにはどうしようもないので、あとはもう廃校の跡地とか校舎の利用とかで、何か明るい話題といえますか、今度はこんなふうになって人が集まってくるよみたいな明るい話題に早く私的にはこう持ってきたい。学校がなくなるって、本当に地域的に暗いんですよ。私もお前議員なのにしっかりしてないからこういうことになったんだなんてお叱りを受けたりもしまっ、本当に責任感してるんですが。だけど、一人の力でどうできるもの、これは言い訳になっちゃうかもしれないので、とにかくできれば暗い話題から今度はそれを一歩乗り越えて明るい話題を地元で作っていきたいななんていうふうに思っ、今は私は頑張ろうとしています。最後に一つなんですけども、美化推進というような形で前回私、ポイ捨てがすごく多いんですよ。町中は綺麗なんですけれども、一歩町中から外れると車からのポイ捨てが未だにひどくて、地域でゴミ拾いがとても大変だというような状況がありまして、これを何とかしたいというようなことで取り組んでいるんですけども、それが何とか功を奏しそうで4月からの事業で市のほうでも取り組むと思うんですけども。白河との出入りする市の境なんですけども、西郷と白河との市と村の境付近に普通ですとここから白河とか、ちょっと例でいうと「花火のふるさと浅川町へようこそ」みたいなのだったりとか、そういうようなものが一新されて、白河がありがた的な文章の入って看板が立てられて、そのポイ捨ての防止といえますか、そのような形で立つような状況なので、それもちょっと私わくわくして期待しているんですけども。今回は今度はゴミを拾う、緑川産業さんがすごくその道路のゴミ拾いと一生懸命やっ。てくださって、そういうふうに個人的にできることは本当に素晴らしいなと思っ。てまして、そういうような取り組み、緑川産業さんみたいなといえますか、それを含めて地域でも広がるようなんですけれども。あと、散歩する人とかが犬の排泄物を処理する袋じゃなくて、ゴミを別の袋を持って日頃からみんなが歩く度にちょっとづつ拾ってたら、地域で「はい、今日はゴミ拾いみんなでやりますよ。」的なことではなくて、ずっとゴミが減るんじゃないかなんていうふうに思っ。まして、その取り組み。これはロータリーで去年の暮れに、金田さんが音頭を取っ。てくださって白河駅周辺やりましたよね。その時にはやっぱり集めるゴミ少なかったんですけども、やっぱりでもそれがちょっときっかけになって、やっぱり拾うほうも一生懸命やらなきゃなんて思っ、私も白河市でもそんな取り組みできたらなと思っ。たんですけども。とにかく、西ロータリーさんと私、学ばせていただくことがものすごく多くて、これからも何とか頑張っ。てやっていきたいななんていうふうに思っ。つたない卓話で申し訳ないですが、本当にありがとうございました。皆さん、これからもよろしくお願。いいたします。ありがとうございました。